

2019年 春学期

社会科・公民科教育法 1 第1回

【主な内容】

- **ガイダンス**
- **来週の模擬授業の準備について**

アンケートの説明

- ・高校時代の履修科目(地理・歴史・公民)
- ・大学での社会科に関する他の科目の履修状況
- ・自分が中学校・高校で受けてきた社会科教育の授業に関する経験やイメージ
- ・教員志望への本気度
- ・本講義への抱負・自己紹介などあれば
- ・今までの人生で、最も「多くのものを学んだ」と思える経験をしたのはいつですか？

今日の授業の趣旨説明

1. **社会科・公民科教育法1のコンセプト(考え方)を全員で共有する。**
2. **1年間、続けていけそうかを判断してもらおうこと。**

自己紹介タイム

なぜ、わざわざ、
そんなことを
語るのか？

本授業の主な

コンセプト(考え方)

この授業の目指すコンセプト

1. 学びの「遊び感」を大切にする。
2. 学びの目的意識(≒納得感)を共有することを大切にする。
3. まだ知らない自分自身を再発見し続ける。振り返る。
4. 他者から学ぶ(チームを組む)×リットを実感する。

(毎回の授業で、この4つを提示します)

この授業の背景となる考え方

会社の
経営

地域との
関わり方

自分の価値観
と向き合う

人の心

子育て

人との
関わり方

会議の
進め方

社会の
仕組み

政治との
関わり方

差別、不平等と
どう向き合うか



教職云々に関わらず、私たちをとりまく社会や生活とは、「教育」「学習」そのものである

シラバスの説明

- 第1回 ガイダンス。1年間の本授業の見通し、大切にしたいコンセプト、最終ゴールの共有**
 - 第2回 社会科基礎論(1):5分間の1対1模擬授業の実施と振り返り(生徒の目線に立ちみる)**
 - 第3回 社会科基礎論(2):ダイヤモンドランキングとレンガのゲームを通した社会科授業観の吟味**
 - 第4回 社会科基礎論(3):「学ぶ」とは何か?:実践記録を読んで子どもの変化を考える**
 - 第5回 社会科主題史(1):社会科はなぜ生まれたのか?「社会科らしさ」とは存在しうるのか?**
 - 第6回 社会科主題史(2):「楽しい授業」をめぐる論争について**
 - 第7回 社会科主題史(3):社会科における「知識の習得・獲得」をめぐる論争点**
 - 第8回 社会科主題史(4):当事者としての「社会科主題史からの学び」を振り返る**
 - 第9回 社会科教材研究(1):教科書分析と「問いを重ねる」グループワーク**
 - 第10回 社会科教材研究(2):「教科書から見つかる疑問」の調査結果の報告・相互評価**
 - 第11回 授業デザイン論(1):学習指導案の説明**
 - 第12回 授業デザイン論(2):配布資料の作成と板書計画の検討**
 - 第13回 学習指導案の検討・作成:相互チェックによる学習指導案の改善**
 - 第14回 学習指導案の提出と1対1模擬授業。自己の学びの振り返り**
- 定期試験**

【アクティビティ】

**なぜ、この授業では、
このような授業構成になっているのか？**

- 1. ペアを組んでください。**
- 2. 1分間で、個人で授業の流れを眺めて、「なぜこのような順番になっているのか？」「どういう意図があるのか？」を皆さんなりに考えてみてください。**
- 3. 1分経ったら、ペアの人とお互いの意見をシェアしてみましょう。(1分)**
- 4. 斉藤が自分の考えを説明します。**

「学びとは何か？」について、改めて一緒に考える。

第1回 ガイダンス。1年間の本授業の見通し、大切にしたいコンセプト、最終ゴールの共有

第2回 社会科基礎論(1):5分間の1対1模擬授業の実施と振り返り(生徒の目線に立ってみる)

第3回 社会科基礎論(2):ダイヤモンドランキングとレンガのゲームを通した社会科授業観の吟味

第4回 社会科基礎論(3):「学ぶ」とは何か?:実践記録を読んで子どもの変化を考える

社会科教育実践史を通して、「いま」「当たり前」を相対化し、想像力を広げる。

第5回 社会科主題史(1):社会科はなぜ生まれたのか?「社会科らしさ」とは存在しうるのか?

第6回 社会科主題史(2):「楽しい授業」をめぐる論争について

第7回 社会科主題史(3):社会科における「知識の習得・獲得」をめぐる論争点

第8回 社会科主題史(4):当事者としての「社会科主題史からの学び」を振り返る

教材研究を通して、教科書内容の「その先」を見つめる。

第9回 社会科教材研究(1):教科書分析と「問いを重ねる」グループワーク

第10回 社会科教材研究(2):「教科書から見つかる疑問」の調査結果の報告・相互評価

学習指導案の作成と最後の模擬授業の実践へ

第11回 授業デザイン論(1):学習指導案の説明

第12回 授業デザイン論(2):配布資料の作成と板書計画の検討

第13回 学習指導案の検討・作成:相互チェックによる学習指導案の改善

第14回 学習指導案の提出と1対1模擬授業。自己の学びの振り返り

定期試験

本授業の目標(全体目標)

1. 様々な社会科(公民科)教育に関わる授業実践や考え方(理論)を見た際に、その実践や考え方の特徴に対して、**自分なりの意見や見解を述べられるための、思考・判断の軸を形成すること**
2. 社会科教育に関連する**書籍を多く読み**、他の履修者と情報を共有することで、教材研究や授業作りに関する、**相互的・知的な情報ネットワークを構築すること**
3. 様々な意見を持ち、様々なパフォーマンス、作品を生み出す他の履修者に対して、「**批判的友人**」**になれること**

本授業の目標(スキル面)

(スキル面)

1. 適切な学習指導案の作成方法を習得すると共に、模擬授業ができるようになること
2. 教材研究や授業作りの力量の基盤となる「読む力」と「書く力」を獲得すること
3. 他の作品・パフォーマンスに対して、自分の意見を言えるようになること

その他、シラバスについて

- 1. 予習・復習について(シラバス参照)**
- 2. 評価方法について(シラバス参照)**
- 3. 定期試験について**

学習ツールと 毎回の学習習慣作り

学習ツールと毎回の学習習慣作り

1. 振り返りジャーナル

2. フックトーク

振り返りジャーナルについて①

1. 表紙に「振り返りジャーナル」「学籍番号」「名前」「履修するクラス」をマジックで書いてください。
2. 毎回、授業の最後10分で1ページに授業の感想や今の思い・つぶやきなどを書きこんでください。
3. テーマを私から提案するときもあります。その時はテーマに応える感想でも良いし、それ以外のことを書いてもOKです。

※持ち帰らないようにしてください。

本の表紙
(授業時のみ)

岩瀬・ちよん(2017)『「振り返り」ジャーナル』

振り返りジャーナルについて②

4. 時間いっぱい、出来るだけ沢山の
ことを書いてほしいと思います。
(後になって振り返る貴重な史料
になります。)
5. 基本的に私以外の誰にも見せな
いので、自由に感じたことなど書
いてください。
6. 書き終わったら、私に見せて提出
してください。
7. 次の授業開始時に私が返却しま
す。(下線・簡単コメントします。)

※持ち帰らないようにしてください。

本の表紙
(授業時のみ)

岩瀬・ちよん(2017)『「振り返り」ジャーナル』

ブックトークについて①

1. 資料を作ってきて、A4用紙1枚に収めて、人数分(+1枚)印刷してきてください。(配布したサンプルを参照)
2. フレゼンは1分間です。資料は読まず、ひたすら前を向いて発表してください。(作成した資料は、後で読んでもらいたい保存するための資料です。)
3. 1分間で終了。10秒オーバーしたら打ち切ります。
4. 社会科・公民科教育法の3クラス(水4クラス・木3クラス・木4クラス)のデータを共有していきます。毎週の授業でタイトルだけはリストアップして配布します。資料自体は、共有します。
5. 過去に他のクラスで発表された本の内容を紹介しないようにしてください。
6. Amazonの本紹介コピーとかはやめてください(バシマス)。。

ブックトークについて②

サンプルのイメージ

本のタイトル
報告者名・学籍番号など

【本の要約】
300字程度

【本を読んだ感想】
200字程度

本の表紙の写真
を貼り付ける

本の表紙
(授業時のみ)

ナンシー・アトウェル著：
澤田他訳(2018)『イン・ザ・
ミドル』より

少しだけ
授業をやります。

来週の模擬授業の
準備について

来週の模擬授業について

- 来週の模擬授業は、
- 「5分間」で「1対1」の模擬授業をしてもらいます。
- 中学校公民的分野からであれば、どこの範囲を選んでもOKです。(教科書が無い人のために、適当にコピーしたものを前に置いておきます。あとで見てください)
- 5分間、一人の生徒役に対して、該当範囲の授業をしてもらいます。

なぜ1対1模擬授業なのか？

- 前提として、「理論→実践」よりも「実践→理論」の方が腑に落ちやすい。
- ただ、模擬授業をする上で、「教師役として、生徒集団と向き合う」のは、実はストレス(負担)がかからない掛かること。
- 「社会科・公民科教委法1」では、生徒集団と向き合う力よりも、まず授業の流れをイメージすることを優先したい。
- 出来るだけストレスフリーで教えられる状況を作りたい。

模擬授業で意識して欲しいこと

端的に以下の3点

1. 生徒と必ずコミュニケーションをとること
2. カンペは絶対に見ないこと
3. 5分間、教師役を演じ続けること

【訂正版】来週に提出して欲しい資料について

生徒役に配ってほしいもの

・教科書コピー1部

斉藤に提出して欲しいもの

・A4用紙1枚・Wordで作成した資料
(書くことは以下の3点)

- ①一時間の授業で達成したい目標
- ②5分間の流れ・構想の概要(400字程度に収める))
- ③5分間の板書計画(これは手書き&ラフで良い。)

【提出資料のイメージ】
A4用紙一枚の収めること

名前・学科・学籍番号

1時間の目標

5分間の流れ・構想
(400字程度)

5分間で書く内容の
スケッチ(手書き)

模擬授業が終わった後に

模擬授業が終わったら、教師役・生徒役の双方の感想を共有しながら、リフレクション(振り返り)を行ってまいります。

リフレクションの方法は、来週に詳しく説明します。

「振り返りジャーナル」の時間

今日のテーマ

「今日の社会科・公民科教育法の
ガイダンスを聞いた上での、
今後の学びに対する目的意識や期待、
疑問点などについて」

※書けたら提出してください。

【重要】ブックトークについての説明資料

【ブックトークの目的・意図】

- 私や授業自体から与えられる知識に満足するのではなく、自分自身で知識を「自律的に」探したり、クラスメートの情報から影響を受けたり取捨選択したり(他者と学ぶメリットを感じたり)する経験を経ながら、自分自身で学び続ける感覚を身につけるため。
- 社会科教師になる or 教育実習に行くにあたり、教材研究などをするための前提となる「読む力」「書く力」を付けるため
- あと、最低限のPCスキルを身につけるため。

【本授業での「ブックトーク」のための10のルール】

1. 毎回の授業で、ブックトークのために、最初の15分間の時間を確保します（発表とリーディングを含む）。
2. 一学期間に全履修者が少なくとも一度は本を紹介しなければならない。発表する日は第2回目の授業で皆さんの要望を聞きつつ、決定します。毎週大体1～3名の発表を想定しています。
3. 発表者の発表が終わったら、リーディングの時間にするため、必ず読書用の本を持って来ること(忘れ物厳禁)。
4. 本は授業作りに繋がると思えば、社会科に関係なくてもよい。ただ、自分自身が興味を強く感じられる内容以外は認めない。
5. 紹介する本を最初から最後まで読む必要はない。また正確に読み取る必要もない(勝手読みも大歓迎)。
6. 発表者は、本の概要を300字で、感想を400字でまとめた資料を作成して、全員に配布する(サンプルフォーマットを配布予定)。
7. 発表者は資料を見ずに、一分間前を向いて本を片手に紹介する。(資料に基づく発表でなくてよい。本がなければ発表不可)。
8. 発表の聞き手は、先週の発表の中で興味を持った2個以上(最低2個。ただし発表者が2人以下であれば、それより少なくても良い)の発表に対する感想レポートを提出すること。1人の発表あたり200字程度で、内容としては、「発表を聞いて、こんなこと考えました」というアイデアを書く。同時に発表者の紹介本に引き付けた、面白そうなオススメの本を一冊紹介する(読んだことがなくてもオッケー)。なお、発表人数が少ない場合のみ、斉藤のブックトークにも反応して欲しいと思います。
9. 発表者の作成資料と聞き手の感想資料は、全てデータで共有する。紹介された本と、オススメの本のタイトルをリスト化して授業で配布し、詳細な作成資料も共有する。
10. 2回以上、感想レポートの提出が遅れると、ブックトークの点数がゼロになる。どうしても提出が厳しい場合は、前もって斉藤まで連絡すること。

1. 紹介する本

築地久子(1987) 『生きる力をつける授業——カルテは教師の授業を変える』(黎明書房)。

2. 報告者

斎藤仁一郎・課程資格教育センター教職研究室

3. 本の要約(300字程度)

児童が勝手に話し合いをはじめ、勝手に席を立ち上がり、似た考えの人同士で作戦会議を始める。何を今日話し合いたいかも場合によっては児童が決める。著者は、授業中に児童が自由に教室を動き回る社会科授業を認めています。本書では、教師自身が児童一人一人の詳細な記録を取りながら、児童が学んでいるのかどうかを観察し、それに応じて授業を絶えず変え続けようとする姿が、豊富な授業記録に基づいて、描かれています。

徹底的に児童の主体性を育てることを大切にする著者は、授業の最後の結論を教師が言うことに否定的です。それは、「それだと児童が教師に依存してしまう。子どもの追究力が弱る。結論は子どもに出させるべき。」と。児童理解とそれに伴う授業の考え方が豊富に盛り込まれた本です。

4. 本の感想(400字程度)

築地久子さんと言えば、実はかなり有名な社会科教師なのですが、本書を読むと、著者の語り口が思った以上に謙虚というか、率直であることに驚きました。自分とは違う授業観の人のことも認めつつ、自分はどのような授業がしたいのかを一つ一つ言葉に紡ぎながら、考えながら話している感じがして、それゆえに読みやすかったです。

しかし、授業中にこれだけ教師がメモを取っているのだとしたら本当に凄い。ただ、この記録を重視することが真に大切にしているのは、授業の前後に1人1人の子どもの顔を思い浮かべ、書いた記録と照らし合わせながら、一人ひとりの成長とは何かを考えた上で、授業をすることなのかなと感じました。本書で紹介される授業では、教師が全面に出て授業を展開するのではなく、教師は話し合いのタイミングを見て合いの手を入れたり、論点を簡単に整理したり、特定の児童に発言を促すような役割を担っている。そしてこれが神業的なのでした。その裏には、深い児童理解とまさに記録がある。

子ども主体の授業作りの魅力と、同時に大変さを感じた一冊でした。

5. 本の表紙

本の表紙
(授業時のみ)